

記念館一般公開

旧奈良女子高等師範学校本館 — 重要文化財 —

平成28年10月29日(土)～11月5日(土)

午前9時～午後4時30分(入館は午後4時まで)

特別展示

女高師時代の教材

— 教育用掛図と正倉院模造宝物



くわのきのげんかんかんばちのず
桑木阮咸捍撥図



百年ピアノコンサート

演奏者：中村 利奈氏

10/29(土)、10/30(日)、11/3(木・祝)

各日 午前11時～11時30分、午後2時30分～3時

入場無料

予約不要です

交通

近鉄奈良駅①出口から徒歩約5分
JR奈良駅から市内循環バス
近鉄奈良駅下車徒歩約5分
※車での来場はご遠慮願います。

連絡先

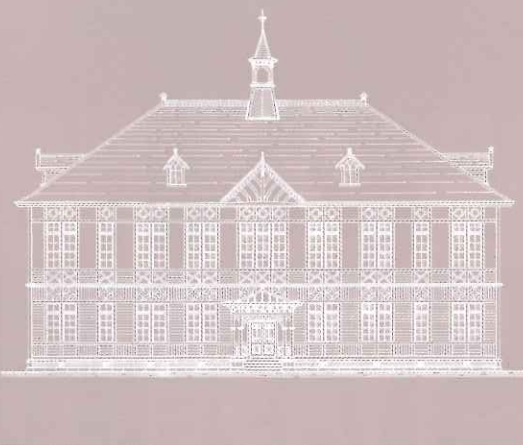
奈良女子大学 総務・企画課
〒630-8506 奈良市北魚屋東町
TEL.0742-20-3220
FAX.0742-20-3205



記念館ホームページ

<http://www.nara-wu.ac.jp/nwu/faculty/kinenkan/index.html>

奈良女子大学 記念館について



奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校は1908(明治41)年3月に設置され、翌年5月から授業を開始しました。校舎の工事は1908(明治41)年2月から始まり、翌年10月には主要な建物が完成しました。現在、奈良女子大学記念館としている建物は、奈良女子高等師範学校本館としてこのとき建設されたものです。

設計は京都帝国大学建築部長で奈良出張所心得の山本治兵衛が行いました。

木造二階建てで、外観の大きな特徴は、北欧によく見られる木部を外に表す壁構造のハーフティンバー形式をとっており、屋根には頂塔およびドーマー窓が設置されていることにあります。1階は中央に廊下が配され、これを挟む形で7室が設置されています。建物両端にある階段で2階に上ると、フロア全体が大きな講堂となっています。講堂内には柱は用いられず、中央部に二重に織り上げた天井には明かり取りの窓が配され、広々とした空間が広がります。

1994(平成6)年2月から6月にかけて改修工事が行われ、同年12月27日に正門および守衛室と併せて重要文化財に指定されました。その後も空調設備工事・外壁改修など、その時々適切な修理を行い、2014(平成26)年12月25日から2015(平成27)年12月にかけては、これまでにない長い時間をかけて大規模な耐震補強工事を実施しました。この工事に際しては、文化庁・奈良県の指導を受けて、歴史的建造物の文化的価値を損なうことのないよう、細心の注意を払い設計、施工がなされました。

日本館は建設以来、改変された箇所はほとんどありません。現在も2階講堂内部には奈良女子高等師範学校開校当時から使用されていた長椅子がそのままに並び、開校時に購入した最も古い国産ピアノのひとつであるとされる「百年ピアノ」が置かれ、往事を偲ぶことができます。

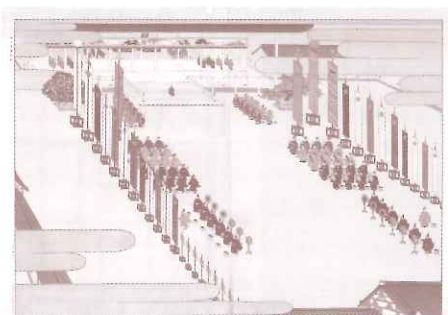
特別展示 女高師時代の教材 — 教育用掛図と正倉院模造宝物

奈良女子大学は、明治41(1908)年の奈良女子高等師範学校創立から現在にいたるまで、さまざまな教育関係資料を焼失・散逸することなく所蔵・保管しています。これらの資料群は、近代日本における女子教育の歴史においても、また教材史という側面においても、まとまりを持った資料群として大変学術的価値の高いものです。今回はこれらの資料群のうち、教育用掛図と正倉院模造宝物を展示いたします。

奈良女子大学は約300本の教育用掛図を所蔵しています。教育用掛図は女子高等師範学校時代に歴史・地理(文学部)や生物教育(理学部)の授業等に供するため、当時の教授陣が集めた当時の一級資料群です。古地図・歴史的建造物見取り図・人物図・金石文拓本など、多様な内容が含まれており、現在ではとても入手の叶わない資料も多数あります。

正倉院模造宝物は美術工芸品として、また歴史教育の資料として大きな意義を持っています。正倉院宝物には、製作当時(奈良時代)の技術が現代において途絶えてしまっているものもあり、戦前期の名工がどのようにして当時の技術を復元しようとしていたのかを知ることができるなど、現代の宝物製作・修復のための有力な情報も有しています。正倉院模造宝物の美しさに思いをはせるとともに、模造宝物製作の重要性を感じていただければ幸いです。

奈良女子大学記念館 館長 井上 容子



ししんでんしょうめんごせいぎのず
紫宸殿正面御盛儀の圖



みつだえぼんさんすいえず
密陀絵盆山水絵圖



こぼこ
籠箱